

南の無人島で男2人と女2人が4P 女たちの正体  
は・・・

少し昔の話である・・・・・・・・・・。

大きな音を立てて少し揺れながら島の砂地に着陸したヘリ。波はヘリの羽の  
風で波紋を立てて沖へと少し押しやられる。雲の少ない水色の空が穏やかな海  
を包み込んでいる南の国の夏の真昼のことだ。

ここは無人島か・・・？

困った顔をして降りてきたのは2人の男だ。二人は仕事仲間である。

2人は軽やかな短パン姿。毎晩夫婦の夜の営みをしているため、股間には大  
きな巨根がついている。そのため、短パンの股間のはち切れそうなほど膨らん  
でいる。もちろん毛は剃り落し、パイチンである。

毎晩、夫婦交換というエロいことをしていて、先日は近場のホテルで夜中バ  
イブレーターを使って互いの夫婦を交換し合い、とことんエロを突き詰めた二  
人。趣味はスポーツのほかにセックスと豪語できる、そんな激しさである。

2人は子供にもスポーツをさせている。海外に留学している子供のスポーツの大会の観戦のため自家用のヘリで向った二人だったが、急なハプニングが発生し燃料が切れ目的国まで持たなくなったのだ。致し方なくどこか途中で下りる必要が生じた。幸い、目的国は海を渡るとは言っても近場で大きな海洋を渡る移動ではなかったため、あちこちに小さな島はまばらに点在した。しばらく歩いてみると、二人のヘリが降りた島はやはり無人であることが分かった。人が何かを設置したような文明の痕跡が見当たらない。そして、少し歩けば島全体が把握できる広さだった。

しばらくどうしようかと相談しながら島を歩き過ごしていると、二人が降りた浜辺のすぐ近くに気配がした。そちらを二人が向くと、緩やかに水上を通る風と延々と光り揺れる波間をぬうようにイカダで浜辺に下りてきた誰かがいた。小さなイカダだった。手作りでもなさそうだがとにかく小さい。2人いる。濡れた体で男2人の元へ近づいてきて、水着にTシャツ姿の2人の美女であることが分かった。

自分たちと同じようにここへ漂流、遭難してきたのかもしれないと男たちは思った。

白いTシャツはびしょびしょに濡れ、その胸部の二つの肉山の大きさを際立

たせている。二人ともそろいにそろって異常・・・なくらいに大きい。正真正銘の巨乳。

少し暑すぎたのか・・・二人は陸地に上がると即座にTシャツを脱ぎ捨てた。

柄模様の水色の水着がブリンッと顔を出す。股間の部分は面積の小さいビキニパンツである。股間に寄った水着のシワを右手で少し二人とも修正し、そして無毛の脇を上げて太陽の照り付ける日差しを遮断する。

2人は暑かったのか、そのまま水着も脱ぎ捨てた・・・。

————— 体験版は以上になります。—————